

クサンル川水系河川整備基本方針

平成 20年 9月

北 海 道

クサナル川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2 . 河川整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水及び計画横断形に係る川幅に関する事項 ..	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量 に関する事項	6
(参考図) クサナル川水系流域概要図	7

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

クサナル川は、北海道稚内市の標高約 200m の丘陵台地にその源を発し、北東に流れ、クサナル沢川、クサナル左の沢川の支川を合流し、稚内市市街地を流下して宗谷湾に注ぐ、流域面積 4.9km²、幹川流路延長 4.0km の二級河川である。

河川名は、一説によると、アイヌ語の「ク・サン・ル (ku-san-ru:我・浜の方に出る(下る)・道)」に由来しており、クサナル川が宗谷湾に向かって東に降りる斜面沿いに流れていることから名付けられている。

クサナル川の流域は、山林が約 60% を占め、中流域の丘陵地から下流域の平地にかけては住宅地が広がり、河口周辺の平地には水産加工場や倉庫、商業施設などが立地する市街地が形成されている。また、下流域には道北の主要都市である旭川市と結ばれる国道 40 号や JR 宗谷本線が横断し、河口部には稚内市の経済・産業を支える稚内港が位置している。

流域の地形は、大きく上流域の山地(大起伏丘陵地、小起伏丘陵地、岩石台地)と JR 宗谷本線付近から河口までの平地とに区分される。山地部は流域の西側にある上流端を頂点に標高 200m から 80m の山々で構成され、平地はクサナル川の浸食によって山地から流出した砂、砂礫、粘土が堆積した三角州性低地を形成している。

流域の地質は、平地が砂、礫、泥岩を含む粘土による沖積層で構成され、山地の東側が珪藻土質泥岩や軟質頁岩による声間層、山地の西側が硬質泥岩、頁岩や砂質頁岩による稚内層で構成されている。

流域の気候は、宗谷湾に面した日本海型の気候区分に属し、年間の平均気温は約 7 と、道内では比較的寒冷な地域である。年降水量は約 1,100mm と道内では平均的であり、累計積雪深は年間約 400cm と道内では比較的多い方である。また、年平均風速は 4.5m/s 程度で道内でも風の強い地域である。1 月から 2 月にかけては、シベリア方面より流氷が南下して宗谷海峡に入り、ときには宗谷湾一帯を覆うこともある。

クサナル川は、かつて原野や山林の間を流れる自然河川であったが、流域の開発が進むにつれて洪水による氾濫が頻発するようになり、昭和32年から昭和62年にかけては災害復旧工事等により護岸を整備した。しかし市街化の進展から流出量が多くなり、昭和60年8月には浸水家屋7戸、平成6年8月には浸水家屋13戸、平成8年8月には浸水家屋4戸、平成12年10月には浸水家屋10戸と度重なる洪水被害を受けたため、平成10年から平成18年にかけて河口から準用河川改修工事を行った。

クサナル川では、現在のところ水利用はない。

河川空間の利用としては、市街地区間の河岸がコンクリート擁壁や積ブロックで護岸されているため、人は川の中に入れないが、河川沿いの市道や橋から川を望む人が見られる。また、支川クサナル左の沢川では小学校によるヤマメの放流が毎年定期的に行われ、南小の森では川遊び、水生昆虫観察が行われている。

支川クサンル左の沢川を含む上流域及び西側丘陵部には、ヤチダモ - ケヤマハンノキ林やミズナラ林など広がっている他、ヤマメ、フクドジョウ、エゾトミヨなどの魚類の生息が見られ、ヒヨドリ、ハイタカやオジロワシの飛翔が確認されている。また、草原にはミクリの生育が確認され、カラスアゲハ、ウスバキトンボなどの昆虫類、エゾアカガエル、エゾサンショウウオなどの両生類も見られる。哺乳類では、エゾクロテン、エゾシカ、キタキツネなどの生息が確認されている。

中流域から下流域の市街地部は、住宅地や道路などと隣接しており、川沿いには、ヒメムカシヨモギやセイヨウタンポポなどの雑草群落やオオイトドリ群落などの草本群落が帯状に分布し、ヤナギ林などの木本類は一部に見られる程度である。川には、マガモなどの鳥類、ウグイ、フクドジョウ、エゾトミヨなどの魚類が見られ、草本群落などにはヒメギス、モンキチョウなどの昆虫類も見られる。

水質については生活環境の保全に関する環境基準の類型指定を受けていないが、平成 17～18 年度の調査では上流域の BOD (75%値) が 1.6mg/ と A 類型相当、下流域では 1.9mg/ と A 類型相当である。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害の発生状況、治水の現状、河川の利用状況、周辺の土地利用状況並びに河川環境を考慮し、周辺地域の社会・経済情勢との調和に十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図るものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、クサノ川流域が持つ社会・経済的な重要度と道内の他河川とのバランスを図りつつ、河道の掘削などにより河積を増大させ、計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図るものとする。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や計画規模を上回るような洪水に対しては、迅速な対応が可能となるよう、水防管理者等の関係機関に対し河川情報等の確実な伝達やハザードマップ作成の支援等を行い、洪水被害の軽減を図るものとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、現在のところ水利用はないが、今後とも健全な水循環の確保の観点から関係機関などと連携を図りながら、適正かつ合理的な水利用が図られるよう努めるものとする。また、今後、水量・水質の把握に努め、魚類等の生息する水環境の保全が図られるように努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、現況河道において魚類が確認され、上流域には多くの動植物が生息・生育していることから、河道の縦断的な連続性に配慮するなど良好な河川環境の整備と保全に努めるものとする。

また、沿川道路が地域住民に利用されていることを踏まえ、水辺と親しめる河川空間の整備を地域と連携して行い、親水性の向上を図るものとする。

景観に関しては、流域の自然や社会特性、周辺の土地利用状況、地域のまちづくり計画などを踏まえ、稚内市街地における景観と河川が総合的に調和するよう、親しみやすい川づくりを行い、商業施設や家屋の立地する市街地の景観が保たれるよう努める。なお、実施にあたっては、時間の経過を考慮して、周辺の風景となじむよう施設の配置、形態・材料・色彩などの選定に努める。

河川の維持管理については、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等の総合的な観点から、必要な措置を講ずるなど、適切な実施に努める。また、治水としての機能や環境への影響を考慮したうえで、河道内の樹木や堆積土砂の適正な管理を行うものとする。

また、河川に関する情報を地域住民に幅広く提供、共有することなどにより、河川管理者と地域住民との連携、河川に対する愛護精神の育成、環境教育の支援並びに住民参加による河川管理が図られるよう努めるものとする。

なお、以上の実施にあたっては、地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調整施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、平成12年10月の既往洪水を考慮して、緑1号橋基準地点において65m³/sとし、全量を河道に配分する。

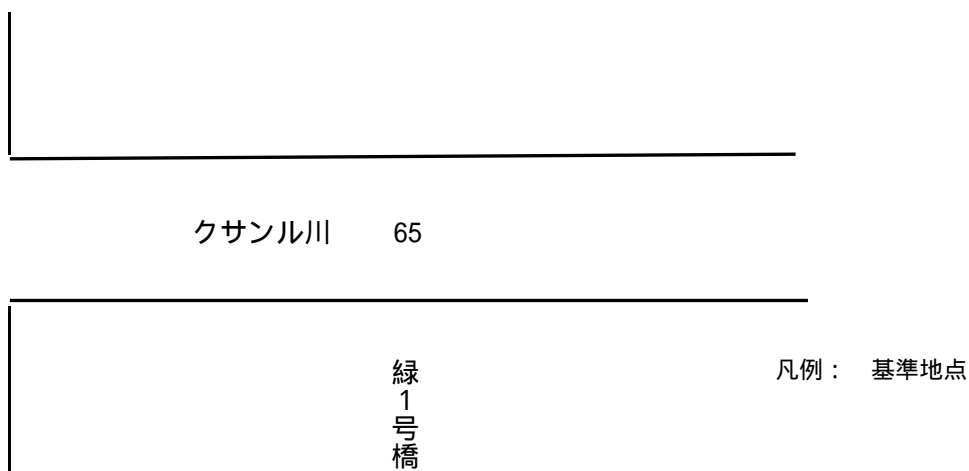
計画高水のピーク流量等一覧表 (単位：m³/s)

河川名	基準地点名	計画高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
クサンル川	緑1号橋	65	-	65

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、緑1号橋基準地点において65m³/sとする。

宗
谷
湾



計画高水流量配分図 (単位：m³/s)

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

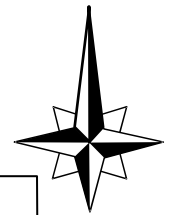
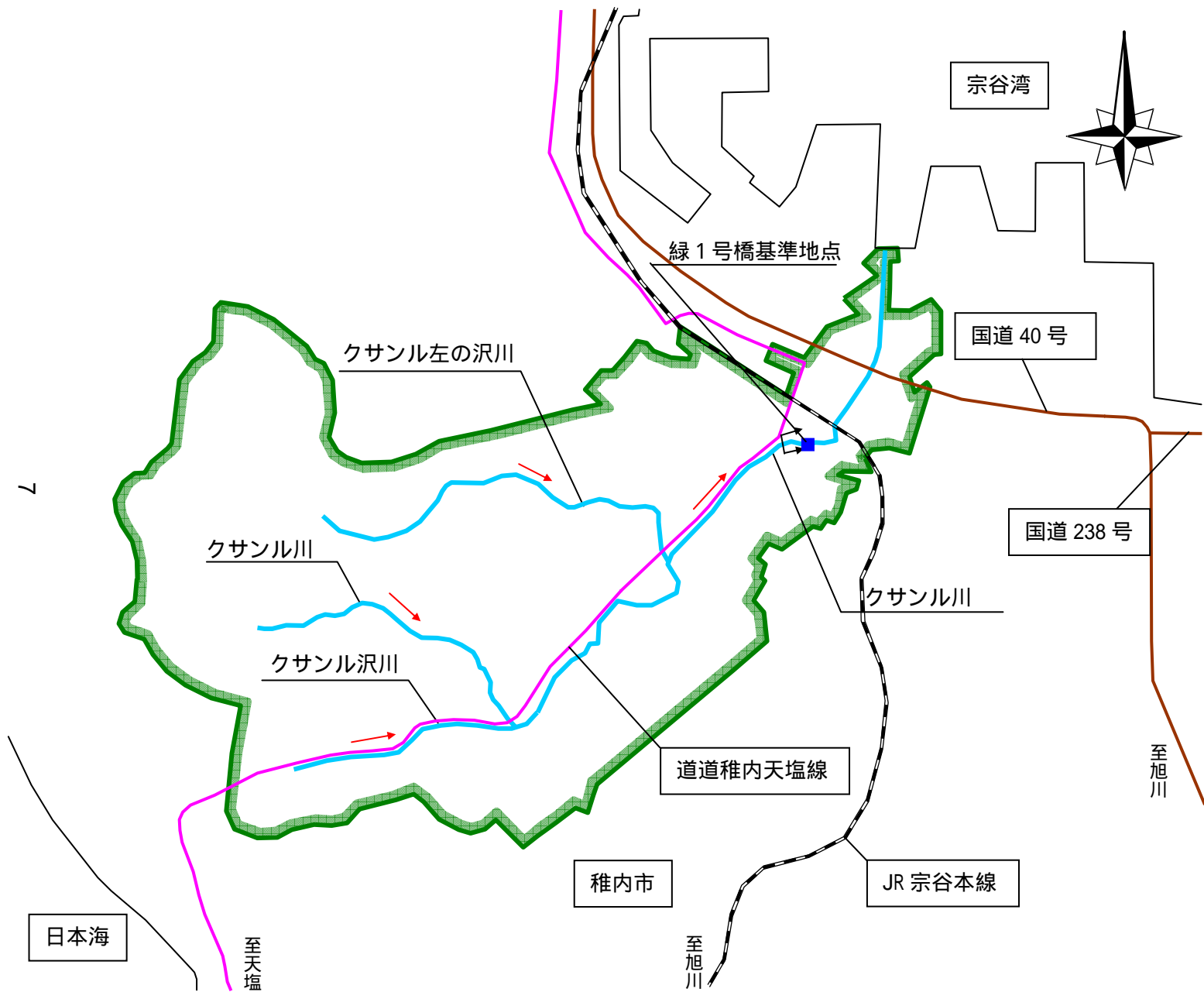
河川名	基準地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
クサナル川	緑1号橋	0.9	+4.35	8

T.P. : 東京湾中等潮位

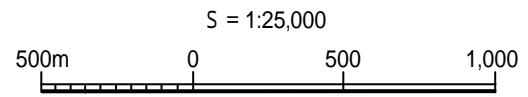
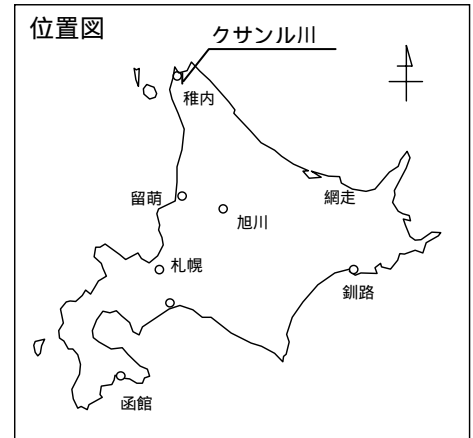
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

クサナル川において水利用はなく、また、濁水被害が生じた事例もない。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、今後、流況等の調査を行い、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮し調査検討を行ったうえで定めるものとする。



凡 例	
	法区間
	流域界
	基準地点



クサンル川水系 流域概要図

